

新潟県内高等学校卒業者の進学動向（2001 - 2016年度）

山口 雄三・大場 純慈*・内海 佳之**

Changing Trends in the Selection by High-School Graduates
in Niigata Prefecture of Options for Higher Education :
An Analysis of the Last Sixteen Years (2001-2016)

Yuzo Yamaguchi, Junji Oba*, Yoshiyuki Uchiumi**

1. 緒言

18歳人口が再び減少期に入る2018年が迫って来ている。少子化による18歳人口の減少ペースが上がるのである。現在、私立大学の約4割が定員割れの状態にあり、収入の7割以上を授業料などの学生納付金に依存している私立大学では経営に直接影響する。人口減少が著しい地方の大学では特に深刻な問題である。文部科学省は私立大学に対しては早期の対応が必要であるとして2014年度から「私立大学等経営強化集中支援事業」などの対策を打ち出している。¹⁾

昨年末、政府は国の施策を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂版を閣議決定した。その中には歯止めがかからない東京への人口の一極集中を是正するため、大学の都内への新設抑制や地方移転を進める対策を検討する方向を示している。²⁾しかし、一方で「地域ニーズに対応した高等教育機関の機能が十分とはいえない」などと指摘しており、大学側に対して受験生に選択してもらえるような魅力ある大学づくりを迫っている。地方大学は都市の大学にはない魅力を創り続け、その情報を発信し続けなければならない。しかし、近年、大学の増加や学部の多様化などによって大学の実像が見えにくくなっている。これまで以上に大学は広報活動に力を入れ、説明責任を果たす必要に迫られているのである。³⁾ただでさえ経営体力のない、人的資源に乏しい地方私立大学にとっては耳の痛い話である。

上述したように定員を充足できない大学は相当数存在する。地方ほど若者の数は減っており、大学の置かれた状況は多様になっている。地方私立大学は18歳人口減少の影響をもろに受け、大学間格差、地域間格差が広がっている。新潟県においても一部私立大学では定員を満たせない状態が続き、大学間格差が広がっている。学生からの授業料が大学収入の柱である以上、適切な数の学生を確保することは経営上の大前提である。一校あたりの公費投入額が国公立大学の数十分の一しかない私立大学では大学の存亡に関わる。

* 新潟青陵大学・短期大学部 学生募集・入学試験課主幹課長事務代理

** 新潟青陵大学・短期大学部 学生募集・入学試験課主任

過去において本県では、全国最低とも言われた進学率を向上させるために、他県と比較してもやや強引とも思える公私協力方式によって、短期間に複数の私立大学が設立された。⁴⁾ 現在、県内にある私立大学の多くはこの時期に設立されたものである。しかもこれら私立大学の多くは、2018年問題に直面する典型的な地方中小私立大学であり、いずれも困難な状況に陥っている。

個々の大学が規模や立地条件、周辺環境に応じて自校の特色を最大限に発揮するにはどうすれば良いか。自助努力だけでは限界があるだろう。現状を打開するためには、まずは今置かれている状況をつまびらかに把握することが重要である。これからの1、2年は縮小均衡への対応を検討できる最後の貴重な時間である。

先に我々は新潟県内にある大学の分類別志願者数動向について報告した。⁵⁾ その中で、近年、県内高等学校からの県内大学への志願者数が減少し、県外高等学校からの志願者数は増加していることを示した。県内高等学校からの志願者の減少は、男子は女子に比べて顕著であった。女子は新設された公立大学への志願者数が多く、志願者の減少は少なかった。しかし、これらはあくまで大学側から見た志願者動向であり、実際の県内高等学校卒業生の実数による進学動向を正確に表しているとは言い難い。

県内高等学校卒業生の進学動向をより正確に把握することは重要である。特に県内私立大学にとっては今後の対策を考えるための判断材料になり得るであろう。本報告では新潟県が公表している当年度高等学校卒業生の進路、進学データをもとに、過去16年間の進路、進学動向を概観し、大学等進学については大学分類別、男女別、県内・県外大学別に進学先を区分して検討したことを報告する。

2. 調査方法

2-1. 調査データ

本報告では、新潟県が一般に公開している下記に示すオープンデータから必要な調査項目データを抽出した。それ以外から得たデータは参考文献に別記した。

新潟県教育庁総務課「大学等進学状況調査報告書」平成12-28年度

2-2. 調査対象・調査期間

2001年度から2016年度にわたる新潟県内の高等学校および中等学校卒業生を対象とし、それぞれ当年度卒業生の進路、進学先を分類し、時系列で示した。

本報告で示す各分類の数値は、特別な注記がなければすべて当年度卒業生の数値を示しており、過年度卒業生は含まない。

3. 調査結果

3-1. 新潟県高等学校卒業生進路別推移

表1、2には2001年度から2016年度までの新潟県内高等学校卒業生数、進路別実数およびその割合(%)の推移を総数、男女別で示す。

ここで示す進路分類は「大学等進学状況調査報告書」による。ただし、専修学校進学者は専修学校の専門課程（高等学校卒業程度を入学資格とする課程で、通常、専門学校と称する）へ進学した者および進学し且つ就職した者をいう。その他は大学等進学者、専修学校進学者、就職者に含まれない者をいう。

表1 新潟県内高等学校卒業者進路別推移 総数, 男女別

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
合計	27,290	27,607	27,085	26,193	25,377	24,616	23,714	22,813	21,845	21,814	20,968	21,317	21,640	20,091	20,434	20,059
大学等進学者	9,921	10,237	10,078	10,020	10,231	10,789	11,197	11,121	10,696	10,557	9,985	9,895	9,880	9,582	9,746	9,566
専修学校進学者	7,233	7,721	7,892	7,629	7,136	6,620	5,660	5,281	4,915	5,576	5,329	5,785	6,053	5,410	5,310	5,068
就職者	5,590	4,900	4,607	4,628	4,648	4,470	4,563	4,486	4,096	3,403	3,468	3,584	3,689	3,721	3,898	3,836
その他	4,546	4,749	4,508	3,916	3,362	2,737	2,294	1,925	2,138	2,278	2,186	2,053	2,018	1,378	1,480	1,589
男子																
合計	13,450	13,695	13,646	13,137	12,767	12,504	11,898	11,557	11,092	10,845	10,655	10,794	10,909	10,019	10,318	9,955
大学等進学者	4,977	5,141	5,089	5,011	5,191	5,612	5,698	5,681	5,574	5,387	5,145	5,073	5,019	4,792	4,874	4,663
専修学校進学者	2,933	3,162	3,312	3,252	2,990	2,742	2,239	2,090	1,914	2,212	2,128	2,344	2,446	2,132	2,089	1,933
就職者	3,160	2,733	2,664	2,655	2,686	2,592	2,589	2,631	2,349	1,897	2,045	2,132	2,200	2,220	2,412	2,354
その他	2,380	2,659	2,581	2,219	1,900	1,558	1,372	1,155	1,255	1,349	1,337	1,245	1,244	875	943	1,005
女子																
合計	13,840	13,912	13,439	13,056	12,610	12,112	11,816	11,256	10,753	10,969	10,313	10,523	10,731	10,072	10,116	10,104
大学等進学者	4,944	5,096	4,989	5,009	5,040	5,177	5,499	5,440	5,122	5,170	4,840	4,822	4,861	4,790	4,872	4,903
専修学校進学者	4,300	4,559	4,580	4,377	4,146	3,878	3,421	3,191	3,001	3,364	3,201	3,441	3,607	3,278	3,221	3,135
就職者	2,430	2,167	1,943	1,973	1,962	1,878	1,974	1,855	1,747	1,506	1,423	1,452	1,489	1,501	1,486	1,482
その他	2,166	2,090	1,927	1,697	1,462	1,179	922	770	883	929	849	808	774	503	537	584

表2 新潟県内高等学校卒業者進路別推移 総数, 男女別（割合）

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
大学等進学者	36.3%	37.1%	37.3%	38.2%	40.4%	43.8%	47.2%	48.8%	48.9%	48.4%	47.7%	46.5%	45.7%	47.7%	47.7%	47.7%
専修学校進学者	26.5%	28.0%	29.1%	29.1%	28.1%	26.9%	23.9%	23.1%	22.5%	25.6%	25.4%	27.1%	28.0%	26.9%	26.0%	25.3%
就職者	20.5%	17.7%	17.0%	17.7%	18.3%	18.2%	19.2%	19.7%	18.8%	15.6%	16.5%	16.8%	17.0%	18.5%	19.1%	19.1%
その他	16.7%	17.2%	16.6%	15.0%	13.2%	11.1%	9.7%	8.4%	9.8%	10.4%	10.4%	9.6%	9.3%	6.9%	7.2%	7.9%
男子																
大学等進学者	37.0%	37.5%	37.3%	38.1%	40.7%	44.9%	47.9%	49.1%	50.2%	49.7%	48.3%	47.0%	46.0%	47.8%	47.3%	46.9%
専修学校進学者	21.8%	23.1%	24.3%	24.8%	23.4%	21.9%	18.8%	18.1%	17.3%	20.4%	20.0%	21.7%	22.4%	21.3%	20.2%	19.4%
就職者	23.5%	20.0%	19.5%	20.2%	21.0%	20.7%	21.8%	22.8%	21.2%	17.5%	19.2%	19.8%	20.2%	22.2%	23.4%	23.6%
その他	17.7%	19.4%	18.9%	16.9%	14.9%	12.5%	11.5%	10.0%	11.3%	12.4%	12.5%	11.5%	11.4%	8.7%	9.1%	10.1%
女子																
大学等進学者	35.6%	36.6%	37.1%	38.4%	39.9%	42.8%	46.5%	48.4%	47.7%	47.1%	47.0%	45.8%	45.3%	47.6%	48.2%	48.5%
専修学校進学者	31.1%	32.8%	34.1%	33.5%	32.9%	32.0%	29.0%	28.3%	27.9%	30.7%	31.0%	32.7%	33.6%	32.5%	31.8%	31.0%
就職者	17.6%	15.6%	14.5%	15.1%	15.6%	15.5%	16.7%	16.5%	16.2%	13.7%	13.8%	13.8%	13.9%	14.9%	14.7%	14.7%
その他	15.7%	15.0%	14.3%	13.0%	11.6%	9.7%	7.8%	6.8%	8.2%	8.5%	8.2%	7.7%	7.2%	5.0%	5.3%	5.8%

図1 新潟県内高等学校卒業者進路別推移 総数

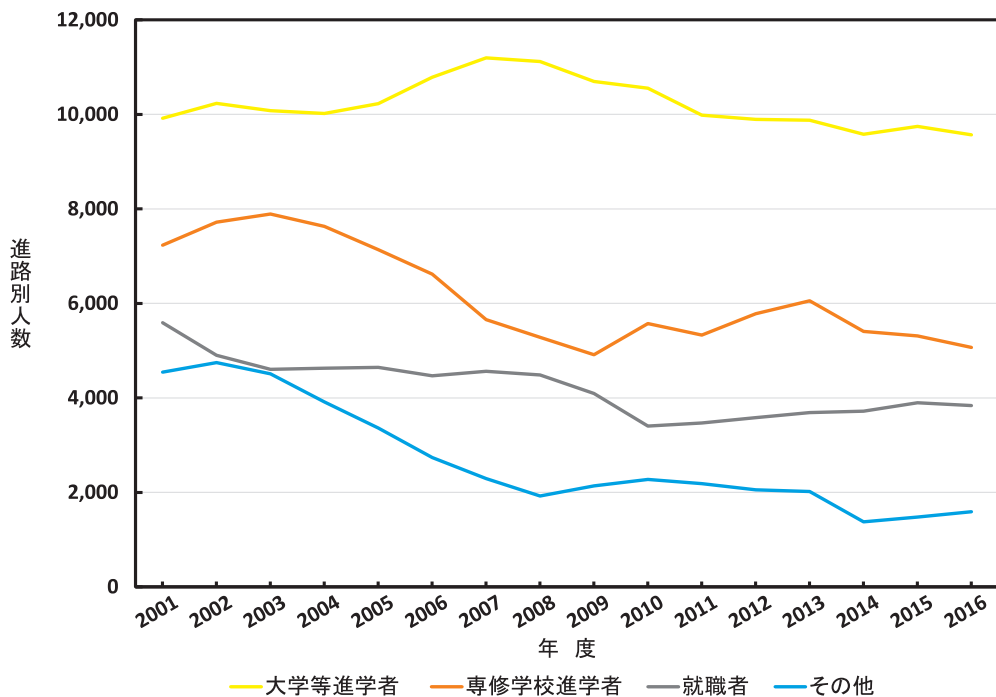


図2 新潟県内高等学校卒業生進路別推移（割合）

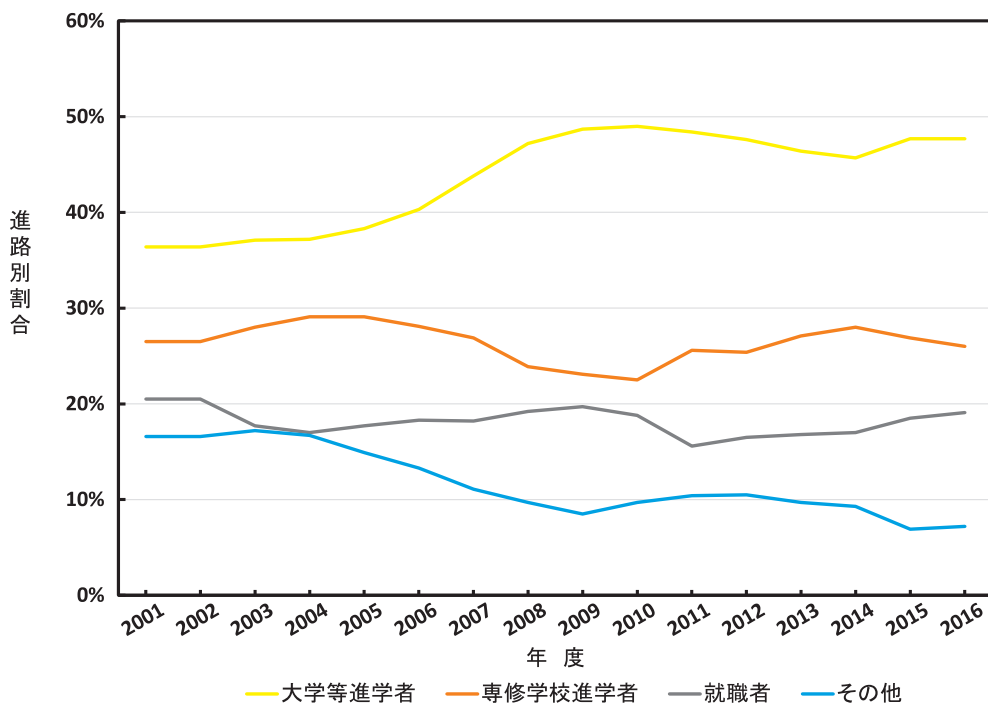


表1から2016年度新潟県内高等学校卒業生の総数は20,059人、男子9,955人、女子10,104人で女子が149人多い。調査期間の2002年度の総数27,607人、男子13,695人、女子13,912人をピークに男女いずれも減少している。進路別では2016年度大学等進学者9,566人(47.7%)>専修学校進学者5,068人(25.3%)>就職者3,836人(19.1%)>その他1,589人(7.9%)である。大学等進学者の男女別では、女子4,903人が男子4,663人より240人多い。専修学校進学者も女子3,135人が男子1,933人より1,202人多く、就職者は男子2,354人が女子1,482人より872人多い。

図1, 2には新潟県高等学校卒業生総数の進路別の実数と割合の推移を示す。

図1から大学等進学者数は2001年度9,921人から2007年度11,197人にかけて増加し、それ以降は緩やかに減少している。専修学校進学者数は2003年度7,892人をピークに2009年度まで減少し、その後増加するが、近年は減少している。就職者は2001年度5,590人から2010年度3,403人までは減少し、その後は緩やかに増加している。その他は一貫して減少傾向である。

図2には新潟県内高等学校卒業生進路別の割合(%)を示す。割合の推移から高等学校卒業生の進路の志向がより明確に把握できる。

大学等進学者の割合(いわゆる進学率)は、2001年度36.4%から2009年度49.0%まで増加し、その後はほぼ横ばいである。(2016年度47.7%)実数では減少しているが、割合では過去3年間変化は見られない。専修学校進学者は2009年度22.5%に減少するが、その後一旦増加し、現在は減少傾向である。就職者は2010年度15.6%に減少しているが、その後増加傾向を示している。その他は一貫して減少傾向である。

次に男女別でみる。表1から男子は、大学等進学者は2007年度5,698人をピークに年々減少している。専修学校進学者も2003年度3,312人をピークに減少している。就職者は2010年度1,897人までは減少したが、その後増加に転じ、現在に至る。その他は一貫して減少傾向である。表2から男子卒業生全体に対する大学等進学者の割合は横ばいであり、専修学校進学者およびその他は減少傾向、就職者の割合は増

加傾向を示している。

女子では、大学等進学者が2007年度5,499人をピークに減少傾向を示している。専修学校進学者は2003年度4,580人をピークに2009年度3,001人まで減少する。その後増加に転ずるが近年は減少傾向である。就職者は2011年度1,423人以降横ばいである。その他は一貫して減少傾向である。割合を見ると女子の大学等進学者は増加傾向を示し、専修学校進学者、その他は減少傾向、就職者については横ばいである。

新潟県内の高等学校卒業者の減少により、大学等進学者、専修学校進学者、その他は減少しているが、就職者のみ近年やや増加傾向である。女子の就職者は横ばいであり、就職者増加の要因は男子の増加にある。大学等進学者は減少しているが、これは男子の減少によるところが大きい。男子の進学率は近年やや減少し、女子は逆に増加しており、女子の大学等進学志向が高まっていることが窺える。

時系列による推移から、大学等進学者、就職者と専修学校進学者、その他の間には興味深い関係がみられる。大学等進学者と就職者、専修学校進学者とその他の変化は似ているが、互いに逆の傾向を示している。すなわち大学等進学者と就職者のプロフィールが横軸に対して凸である時、専修学校進学者とその他のそれは逆に凹になって反対の傾向を示している。男女別の進路推移においても同様である。

先に我々は県内大学への志願者数は社会情勢、経済状況などの影響を受けることを指摘した。⁵⁾ 県内高等学校卒業者の進路動向においてもリーマンショックや東日本大震災のような社会的に大きなインパクトを与える事件や災害が、進学者、就職者に影響を与えることが考えられた。2008年以降、進学者、就職者は大きく減少している。就職者は2010年度3,403人と最小である。進学者と就職者にこのような相関関係があるのは、景気が悪くなれば所得が下がって経済的負担が大きい大学等進学者は減少する。企業は経営状態が悪化すれば採用を手控え、就職者が減少する。そのような時、専修学校進学者が増加するのは、四年制大学への進学をあきらめる代わりに仕事に直結するというイメージが強い専修学校への進学を選択する高校生が増加するためと考えられる。

3-2. 県内高等学校卒業者の大学等進学者推移

表3, 4には県内高等学校卒業者の大学等進学者の実数とその割合（%）の推移を、県内・県外大学別、男女別に分類し、時系列で示した。

「大学等進学状況調査報告書」においては、大学等進学者に大学・短期大学の通信教育部および放送大学、大学・短期大学（別科）、高等学校（専攻科）および特別支援学校高等部（専攻科）への進学者数を「その他」と分類して含めているが、本報告ではこれ以降、大学等進学者に「大学等進学状況調査報告書」の「その他」の数値を含めないことにする。その理由は大学別分類別進学者に「その他」を含めると、分類、集計が曖昧、繁雑になること、また数的にも少ないことから、本報告では「その他」の数値を除いたものを大学等進学者として示すこととする。

大学等進学者総数は2007年度11,062人をピークに減少している。男女別に見ると男子は2007年度5,649人から2016年度4,628人（49.0%）と1,021人減少し、減少傾向は続いている。女子は2007年度5,413人から4,817人（51.0%）に減少したが、減少人数は男子より少なく、18歳人口の減少にもかかわらず、近年、大学等進学者は横ばいである。2016年度女子は男子を189人（2.0%）上回り、調査期間ではじめて実数および割合で男子を上回った。近年の割合の推移から今後も女子の大学等への進学志向は続くと考えられる。

県内大学、県外大学別でみると、2016年度県内大学3,698人（39.2%）、県外大学5,747人（60.8%）で県外大学への進学者数が2,049人（21.6%）多い。県内大学は2008年度4,320人、県外大学は2007年度6,940

表3 大学等進学者推移 総数, 県内県外別, 男女別

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
合計	9,760	10,064	9,938	9,884	10,071	10,665	11,062	10,985	10,537	10,417	9,830	9,769	9,737	9,437	9,623	9,445
男子	4,917	5,076	5,021	4,942	5,128	5,572	5,649	5,622	5,508	5,346	5,092	5,034	4,963	4,755	4,826	4,628
女子	4,843	4,988	4,917	4,942	4,943	5,093	5,413	5,363	5,029	5,071	4,738	4,735	4,774	4,682	4,797	4,817
県内大学																
合計	3,466	3,676	3,604	3,762	3,849	4,093	4,122	4,320	4,149	4,097	3,909	3,810	3,887	3,648	3,871	3,698
男子	1,615	1,742	1,721	1,741	1,825	2,022	1,860	1,992	2,018	1,949	1,872	1,756	1,786	1,674	1,775	1,615
女子	1,851	1,934	1,883	2,021	2,024	2,071	2,262	2,328	2,131	2,148	2,037	2,054	2,101	1,974	2,096	2,083
県外大学																
合計	6,294	6,388	6,334	6,122	6,222	6,572	6,940	6,665	6,388	6,320	5,921	5,959	5,850	5,789	5,752	5,747
男子	3,302	3,334	3,300	3,201	3,303	3,550	3,789	3,630	3,490	3,397	3,220	3,278	3,177	3,081	3,051	3,013
女子	2,992	3,054	3,034	2,921	2,919	3,022	3,151	3,035	2,898	2,923	2,701	2,681	2,673	2,708	2,701	2,734

表4 大学等進学者推移 総数, 県内県外別, 男女別 (割合)

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
男子	50.4%	50.4%	50.5%	50.0%	50.9%	52.2%	51.1%	51.2%	52.3%	51.3%	51.8%	51.5%	51.0%	50.4%	50.2%	49.0%
女子	49.6%	49.6%	49.5%	50.0%	49.1%	47.8%	48.9%	48.8%	47.7%	48.7%	48.2%	48.5%	49.0%	49.6%	49.8%	51.0%
県内大学																
合計	35.5%	36.5%	36.3%	38.1%	38.2%	38.4%	37.3%	39.3%	39.4%	39.3%	39.8%	39.0%	39.9%	38.7%	40.2%	39.2%
男子	16.5%	17.3%	17.3%	17.6%	18.1%	19.0%	16.8%	18.1%	19.2%	18.7%	19.0%	18.0%	18.3%	17.8%	18.4%	17.1%
女子	19.0%	19.2%	19.0%	20.5%	20.1%	19.4%	20.5%	21.2%	20.2%	20.6%	20.8%	21.0%	21.6%	20.9%	21.8%	22.1%
県外大学																
合計	64.5%	63.5%	63.7%	61.9%	61.8%	61.6%	62.7%	60.7%	60.6%	60.7%	60.2%	61.0%	60.1%	61.3%	59.8%	60.8%
男子	33.8%	33.1%	33.2%	32.3%	32.8%	33.3%	34.2%	33.1%	33.1%	32.6%	32.7%	33.6%	32.6%	32.6%	31.7%	31.9%
女子	30.7%	30.3%	30.5%	29.6%	29.0%	28.3%	28.5%	27.6%	27.5%	28.1%	27.5%	27.4%	27.5%	28.7%	28.1%	28.9%

人をピークに減少している。県内大学への進学者は徐々に増加したが、近年減少して横ばいである。県外大学も同様であるが、大学等進学者の実数は多く、県外大学への進学志向は依然として高い。

上記の内容をさらに男女別に見る。

県内大学等進学者は、2016年度男子1,615人(17.1%)、女子2,083人(22.1%)と女子が男子より多く、これまでこの傾向が続いてきた。男子は2009年2,018人(19.2%)をピークに減少している。女子も2008年度2,328人(21.2%)をピークに減少しているが、2011年度以降はほぼ横ばいである。女子の割合の推移をみると一貫して増加傾向を示していることから、女子の県内大学への志向が高いことがわかる。

県外大学等進学者は、2016年度男子3,013人(31.9%)、女子2,734人(28.9%)と男子が女子より多い。この関係は過去16年間変わらない。男女いずれも2007年度にピークとなり、その後減少している。ただし、実数において男子は減少傾向を示しているが、女子は2012年度以降はほぼ横ばいである。割合では女子は増加傾向を示し、県内大学同様、女子の県外大学等への進学志向が高くなる傾向がみられる。

3-3. 大学分類別進学者推移

大学等進学者の進学先を国立大学、公立大学、私立大学、短期大学の4分類に分けて県内高等学校卒業者の推移を、総数、男女別、実数および割合(%)で表5、6に示した。また、図3、4には総数の実数、割合の推移を示す。

2016年度の新潟県内高等学校卒業者の大学分類別進学者は、私立大学6,117人(64.8%)>国立大学1,814人(19.2%)>短期大学920人(9.7%)>公立大学594人(6.3%)である。私立大学への進学者は2007年度7,039人をピークに年々減少しているが、国公立大学に比べて圧倒的に多く、国立大学の進学者の3倍以上あ

表5 大学分類別進学者推移 総数, 男女別

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
合計	9,760	10,064	9,938	9,884	10,071	10,665	11,062	10,985	10,537	10,417	9,830	9,769	9,737	9,437	9,623	9,445
国立大学	1,500	1,598	1,587	1,683	1,710	1,971	2,001	2,124	2,012	1,841	1,865	2,043	1,802	1,865	1,859	1,814
公立大学	123	178	197	225	257	313	289	342	495	488	506	464	482	559	592	594
私立大学	6,079	6,298	6,224	6,020	6,153	6,539	7,039	6,865	6,795	6,898	6,382	6,235	6,407	6,020	6,226	6,117
短期大学	2,058	1,990	1,930	1,956	1,951	1,842	1,733	1,654	1,235	1,190	1,077	1,027	1,046	993	946	920
男子																
合計	4,917	5,076	5,021	4,942	5,128	5,572	5,649	5,622	5,508	5,346	5,092	5,034	4,963	4,755	4,826	4,628
国立大学	877	920	865	954	999	1,197	1,141	1,199	1,207	1,038	1,102	1,228	1,070	1,097	1,084	962
公立大学	57	71	66	76	95	145	115	157	175	180	190	149	189	176	180	200
私立大学	3,716	3,771	3,762	3,573	3,662	3,899	4,139	4,016	3,904	3,884	3,610	3,479	3,529	3,325	3,404	3,326
短期大学	267	314	328	339	372	331	254	250	222	244	190	178	175	157	158	140
女子																
合計	4,843	4,988	4,917	4,942	4,943	5,093	5,413	5,363	5,029	5,071	4,738	4,735	4,774	4,682	4,797	4,817
国立大学	623	678	722	729	711	774	860	925	805	803	763	815	732	768	775	852
公立大学	66	107	131	149	162	168	174	185	320	308	316	315	293	383	412	394
私立大学	2,363	2,527	2,462	2,447	2,491	2,640	2,900	2,849	2,891	3,014	2,772	2,756	2,878	2,695	2,822	2,791
短期大学	1,791	1,676	1,602	1,617	1,579	1,511	1,479	1,404	1,013	946	887	849	871	836	788	780

表6 大学分類別進学者推移 総数, 男女別 (割合)

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
国立大学	15.4%	15.8%	16.0%	17.0%	17.0%	18.5%	18.1%	19.3%	19.1%	17.7%	19.0%	20.9%	18.5%	19.8%	19.3%	19.2%
公立大学	1.3%	1.8%	2.0%	2.3%	2.6%	2.9%	2.6%	3.1%	4.7%	4.7%	5.1%	4.7%	5.0%	5.9%	6.2%	6.3%
私立大学	62.2%	62.6%	62.6%	60.9%	61.0%	61.3%	63.6%	62.5%	64.5%	66.2%	64.9%	63.9%	65.8%	63.8%	64.7%	64.8%
短期大学	21.1%	19.8%	19.4%	19.8%	19.4%	17.3%	15.7%	15.1%	11.7%	11.4%	11.0%	10.5%	10.7%	10.5%	9.8%	9.7%
男子																
国立大学	17.8%	18.1%	17.2%	19.3%	19.5%	21.5%	20.2%	21.3%	21.9%	19.4%	21.6%	24.4%	21.6%	23.1%	22.5%	20.8%
公立大学	1.2%	1.4%	1.3%	1.5%	1.9%	2.6%	2.0%	2.8%	3.2%	3.4%	3.7%	3.0%	3.8%	3.7%	3.7%	4.3%
私立大学	75.6%	74.3%	75.0%	72.3%	71.3%	70.0%	73.3%	71.5%	70.9%	72.6%	71.0%	69.1%	71.1%	69.9%	70.5%	71.9%
短期大学	5.4%	6.2%	6.5%	6.9%	7.3%	5.9%	4.5%	4.4%	4.0%	4.6%	3.7%	3.5%	3.5%	3.3%	3.3%	3.0%
女子																
国立大学	12.8%	13.6%	14.7%	14.8%	14.4%	15.2%	15.9%	17.2%	16.0%	15.8%	16.1%	17.2%	15.3%	16.4%	16.2%	17.7%
公立大学	1.4%	2.1%	2.7%	3.0%	3.3%	3.3%	3.2%	3.4%	6.4%	6.1%	6.7%	6.7%	6.1%	8.2%	8.6%	8.2%
私立大学	48.8%	50.7%	50.0%	49.5%	50.4%	51.8%	53.6%	53.2%	57.5%	59.4%	58.5%	58.2%	60.4%	57.5%	58.8%	57.9%
短期大学	37.0%	33.6%	32.6%	32.7%	31.9%	29.7%	27.3%	26.2%	20.1%	18.7%	18.7%	17.9%	18.2%	17.9%	16.4%	16.2%

る。国立大学、短期大学の進学者は減少しているが、公立大学への進学者は増加している。割合の推移から、私立大学、国立大学は横ばい、短期大学は減少、公立大学は増加傾向を示している。2009年度以降の進学者が増加していることから、県立大学設立の影響とみられる。

2016年度を男女別に見ると、男子は私立大3,326人(71.9%)>国立大962人(20.8%)>公立大200人(4.3%)>短期大学140人(3.0%)、女子は私立大学2,791人(57.9%)>国立大学852人(17.7%)>短期大学780人(16.2%)>公立大学394人(8.2%)である。男子は国立大学、私立大学への進学者が女子に比べて多く、女子は男子に比べて公立大学、短期大学への進学者が多い。男女とも私立大学、国立大学の割合は横ばい、公立大学は増加傾向で、短期大学は一貫して減少している。特に女子の減少が大きく、2001年度から2016年度にかけて37.0%から16.2%と20%以上減少している。この理由は先の報告⁵⁾でも示したように県立女子短期大学の四大化によるところが大きい。

男子では、私立大学、国立大学で全体の92.7%を占め、公立大学、短期大の占める割合は小さい。女子は、私立大学、国立大学で75.6%と男子より低いが、短期大学と公立大学の合計が24.4%と高い。公立大学は男子の2倍、短期大学は約5倍あり、これらに進学する傾向が高いのが女子の特徴である。

次に県内高校卒業者の進学先を県内大学、県外大学別に分けて検討する。

図3 大学分類別進学者推移 総数

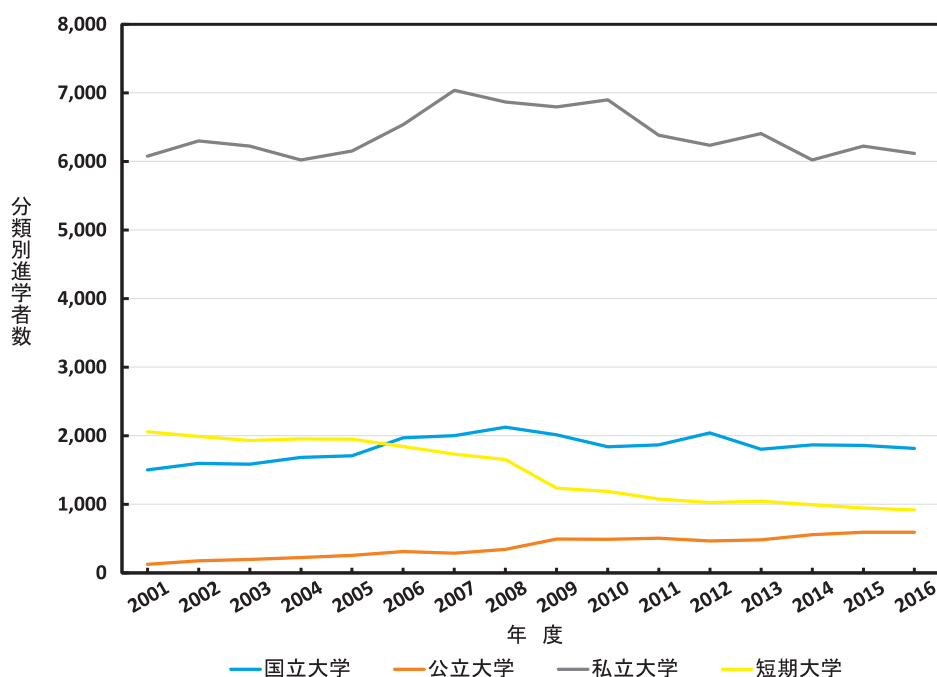
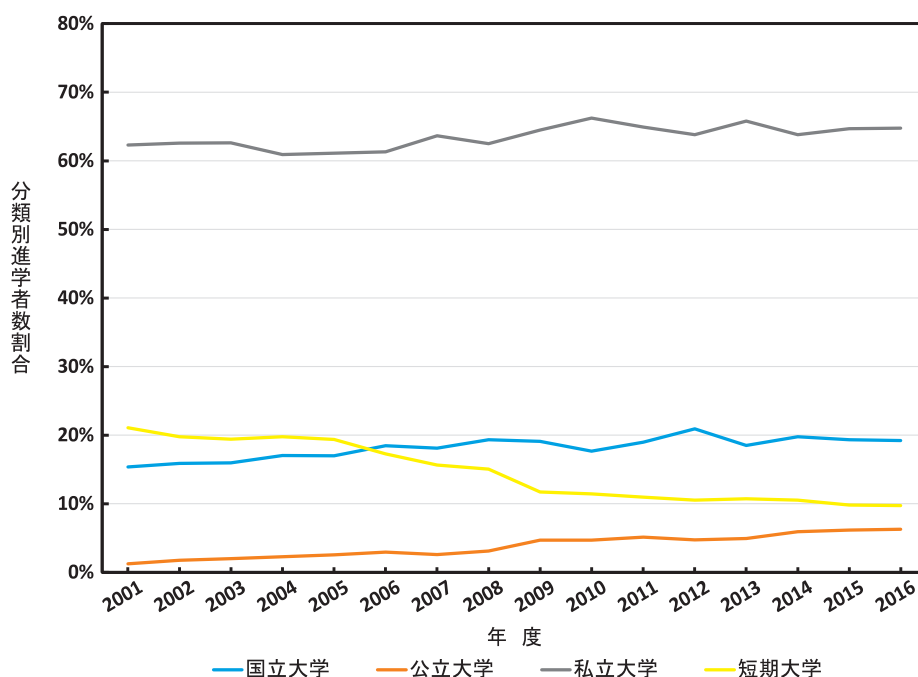


図4 大学分類別進学者推移 (割合)



3-4. 【県内大学】分類別進学者推移

表7、8には県内高等学校卒業生で県内大学に進学した者の実数と割合を、大学分類別、男女別に時系列で示す。図5、6には総数、割合の推移を示す。

2016年度県内大学への進学者数(割合)は、私立大学1,814人(49.0%) > 国立大学966人(26.1%) > 短期大学616人(16.7%) > 公立大学302人(8.2%)である。県内大学分類別進学者は全体の大学分類別

表7 県内大学分類別進学者推移

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
合計	3,466	3,676	3,604	3,762	3,849	4,093	4,122	4,320	4,149	4,097	3,909	3,810	3,887	3,648	3,871	3,698
国立大学	864	946	862	935	921	1,075	1,053	1,172	1,095	966	946	1,028	944	932	980	966
公立大学	0	51	61	63	48	60	60	66	228	218	213	206	220	295	304	302
私立大学	1,540	1,607	1,630	1,613	1,702	1,813	1,922	1,990	2,095	2,192	2,107	1,903	2,034	1,780	1,975	1,814
短期大学	1,062	1,072	1,051	1,151	1,178	1,145	1,087	1,092	731	721	643	673	689	641	612	616
男子																
合計	1,615	1,742	1,721	1,741	1,825	2,022	1,860	1,992	2,018	1,949	1,872	1,756	1,786	1,674	1,775	1,615
国立大学	469	519	438	503	503	652	566	627	632	502	540	583	518	515	544	495
公立大学	0	4	5	3	3	5	2	7	34	45	31	25	44	54	44	58
私立大学	957	990	1,028	993	1,041	1,104	1,110	1,162	1,176	1,203	1,157	1,000	1,081	994	1,063	957
短期大学	189	229	250	242	278	261	182	196	176	199	144	148	143	111	124	105
女子																
合計	1,851	1,934	1,883	2,021	2,024	2,071	2,262	2,328	2,131	2,148	2,037	2,054	2,101	1,974	2,096	2,083
国立大学	395	427	424	432	418	423	487	545	463	464	406	445	426	417	436	471
公立大学	0	47	56	60	45	55	58	59	194	173	182	181	176	241	260	244
私立大学	583	617	602	620	661	709	812	828	919	989	950	903	953	786	912	857
短期大学	873	843	801	909	900	884	905	896	555	522	499	525	546	530	488	511

表8 県内大学分類別進学者推移（割合）

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
国立大学	24.9%	25.7%	23.9%	24.9%	23.9%	26.3%	25.5%	27.1%	26.4%	23.6%	24.2%	27.0%	24.3%	25.5%	25.3%	26.1%
公立大学	0.0%	1.4%	1.7%	1.7%	1.2%	1.5%	1.5%	1.5%	5.5%	5.3%	5.4%	5.4%	5.7%	8.1%	7.9%	8.2%
私立大学	44.5%	43.7%	45.2%	42.8%	44.3%	44.2%	46.6%	46.1%	50.5%	53.5%	54.0%	49.9%	52.3%	48.8%	51.0%	49.0%
短期大学	30.6%	29.2%	29.2%	30.6%	30.6%	28.0%	26.4%	25.3%	17.6%	17.6%	16.4%	17.7%	17.7%	17.6%	15.8%	16.7%
男子																
国立大学	29.0%	29.8%	25.5%	28.9%	27.6%	32.2%	30.4%	31.5%	31.3%	25.8%	28.8%	33.2%	29.0%	30.8%	30.6%	30.7%
公立大学	0.0%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.4%	1.7%	2.3%	1.7%	1.4%	2.5%	3.2%	2.5%	3.6%
私立大学	59.3%	56.9%	59.7%	57.0%	57.0%	54.7%	59.7%	58.3%	58.3%	61.7%	61.8%	57.0%	60.5%	59.4%	59.9%	59.2%
短期大学	11.7%	13.1%	14.5%	13.9%	15.2%	12.9%	9.8%	9.8%	8.7%	10.2%	7.7%	8.4%	8.0%	6.6%	7.0%	6.5%
女子																
国立大学	21.3%	22.1%	22.5%	21.4%	20.7%	20.4%	21.5%	23.4%	21.8%	21.6%	19.9%	21.7%	20.3%	21.1%	20.8%	22.6%
公立大学	0.0%	2.4%	3.0%	3.0%	2.2%	2.7%	2.6%	2.5%	9.1%	8.1%	8.9%	8.8%	8.4%	12.2%	12.4%	11.7%
私立大学	31.5%	31.9%	32.0%	30.7%	32.7%	34.2%	35.9%	35.6%	43.1%	46.0%	46.7%	43.9%	45.3%	39.9%	43.5%	41.2%
短期大学	47.2%	43.6%	42.5%	44.9%	44.4%	42.7%	40.0%	38.5%	26.0%	24.3%	24.5%	25.6%	26.0%	26.8%	23.3%	24.5%

と比較して私立大学への進学者の割合が少なく、国立大学、公立大学、短期大学の割合が高い。

時系列でみると、実数では2008年度4,320人をピークに減少している。私立大学は2010年度2,192人をピークに増減を繰り返しながら減少している。国立大学は横ばい、短期大学は2009年度に県立大学設立に伴い大きく進学者を減らしたが、その後は緩やかに減少している。公立大学は県立女子短期大学の四大化により、進学者は2009年度に急増し、その後、長岡造形大の公立化などを経てさらに増えている。割合の推移においても私立大学、短期大学は緩やかに減少しており、国立大学は横ばいである。公立大学の進学者は新設されるたびに増加しており、今後新たな大学が設置されれば、10%を超えることが予想される。

男女別でみると、男子の県内大学進学者は、2016年度私立大学957人（59.2%）＞国立大学495人（30.7%）＞短期大学105人（6.5%）＞公立大学58人（3.6%）である。女子は、私立大学857人（41.2%）＞短期大学511人（24.5%）＞国立大学471人（22.6%）＞公立大学244人（11.7%）である。

県内大学の進学では女子が男子を468人上回っている。男子は国立大学への進学者が24人上回っているが、その他の大学では女子のほうが多い。特に公立大学、短期大学への進学者が多い。男子は国立大学と私立大学の進学者で全体の9割を占めているが、女子では短期大学進学者が全体の4分の1を占め

図5 県内大学分類別進学者推移 総数

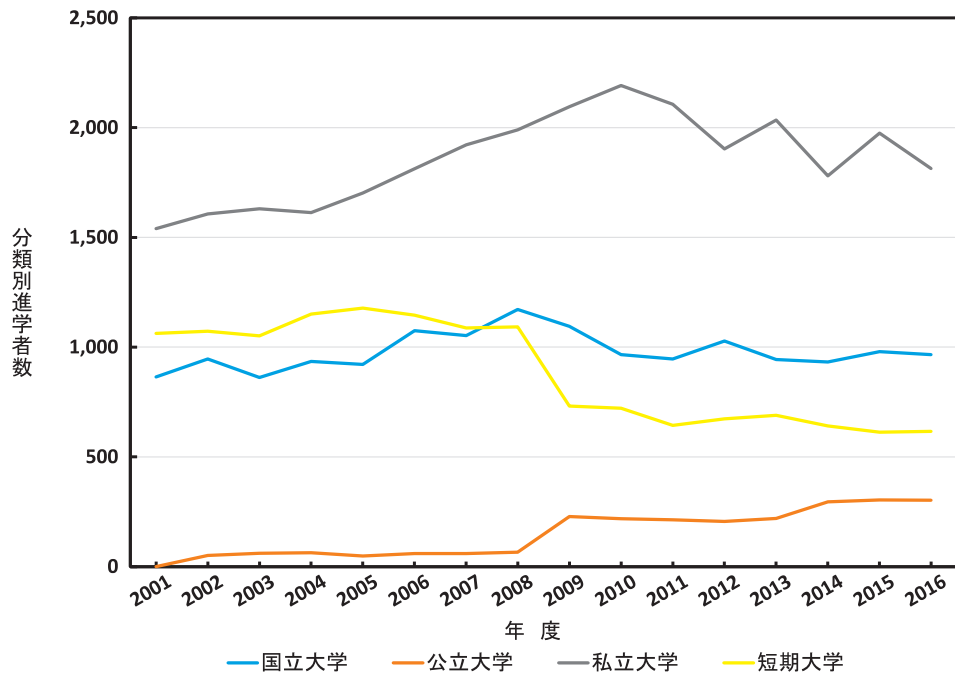
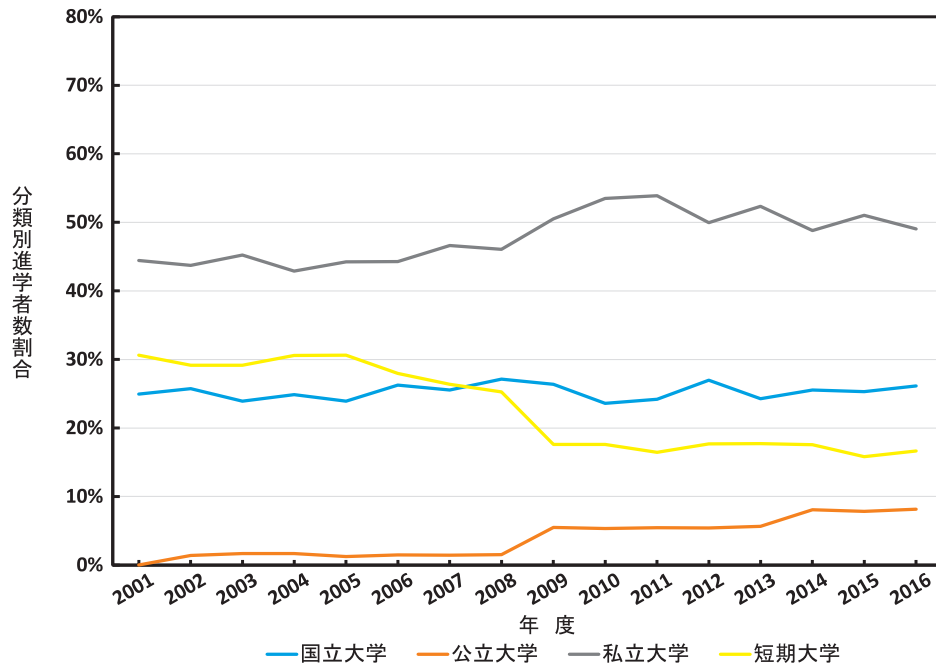


図6 県内大学分類別進学者推移 (割合)



ているのが特徴である。

これらを時系列でみると、男子では私立大学の志願者数は減少しているが、割合は横ばいであり、短期大学は緩やかに減少し、公立大学は増加しているものの全体として大きな変化は見られない。女子では県内私立大学への進学が2001年583人（31.5%）から2010年度989人（46.0%）へと大きく増加したが、2011年度以降は増減を繰り返しながら減少している。実数、割合の推移から、今後、新たな大学の開設

表9 県外大学分類別進学者推移 総数, 男女別

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
合計	6,294	6,388	6,334	6,122	6,222	6,572	6,940	6,665	6,388	6,320	5,921	5,959	5,850	5,789	5,752	5,747
国立大学	636	652	725	748	789	896	948	952	917	875	919	1,015	858	933	879	848
公立大学	123	127	136	162	209	253	229	276	267	270	293	258	262	264	288	292
私立大学	4,539	4,691	4,594	4,407	4,451	4,726	5,117	4,875	4,700	4,706	4,275	4,332	4,373	4,240	4,251	4,303
短期大学	996	918	879	805	773	697	646	562	504	469	434	354	357	352	334	304
男子																
合計	3,302	3,334	3,300	3,201	3,303	3,550	3,789	3,630	3,490	3,397	3,220	3,278	3,177	3,081	3,051	3,013
国立大学	408	401	427	451	496	545	575	572	575	536	562	645	552	582	540	467
公立大学	57	67	61	73	92	140	113	150	141	135	159	124	145	122	136	142
私立大学	2,759	2,781	2,734	2,580	2,621	2,795	3,029	2,854	2,728	2,681	2,453	2,479	2,448	2,331	2,341	2,369
短期大学	78	85	78	97	94	70	72	54	46	45	46	30	32	46	34	35
女子																
合計	2,992	3,054	3,034	2,921	2,919	3,022	3,151	3,035	2,898	2,923	2,701	2,681	2,673	2,708	2,701	2,734
国立大学	228	251	298	297	293	351	373	380	342	339	357	370	306	351	339	381
公立大学	66	60	75	89	117	113	116	126	126	135	134	134	117	142	152	150
私立大学	1,780	1,910	1,860	1,827	1,830	1,931	2,088	2,021	1,972	2,025	1,822	1,853	1,925	1,909	1,910	1,934
短期大学	918	833	801	708	679	627	574	508	458	424	388	324	325	306	300	269

表10 県外大学分類別進学者推移 総数, 男女別（割合）

分類	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
総数																
国立大学	10.1%	10.2%	11.4%	12.2%	12.7%	13.6%	13.7%	14.3%	14.4%	13.8%	15.5%	17.0%	14.7%	16.1%	15.3%	14.8%
公立大学	2.0%	2.0%	2.1%	2.6%	3.4%	3.8%	3.3%	4.1%	4.2%	4.3%	4.9%	4.3%	4.5%	4.6%	5.0%	5.1%
私立大学	72.1%	73.4%	72.6%	72.1%	71.5%	72.0%	73.7%	73.2%	73.5%	74.5%	72.3%	72.8%	74.7%	73.2%	73.9%	74.8%
短期大学	15.8%	14.4%	13.9%	13.1%	12.4%	10.6%	9.3%	8.4%	7.9%	7.4%	7.3%	5.9%	6.1%	6.1%	5.8%	5.3%
男子																
国立大学	12.4%	12.0%	12.9%	14.1%	15.0%	15.4%	15.2%	15.8%	16.5%	15.8%	17.5%	19.7%	17.4%	18.9%	17.7%	15.5%
公立大学	1.7%	2.0%	1.8%	2.3%	2.8%	3.9%	3.0%	4.1%	4.0%	4.0%	4.9%	3.8%	4.6%	4.0%	4.5%	4.7%
私立大学	83.5%	83.5%	82.9%	80.6%	79.4%	78.7%	79.9%	78.6%	78.2%	78.9%	76.2%	75.6%	77.0%	75.6%	76.7%	78.6%
短期大学	2.4%	2.5%	2.4%	3.0%	2.8%	2.0%	1.9%	1.5%	1.3%	1.3%	1.4%	0.9%	1.0%	1.5%	1.1%	1.2%
女子																
国立大学	7.6%	8.2%	9.8%	10.2%	10.0%	11.6%	11.8%	12.5%	11.8%	11.6%	13.2%	13.8%	11.4%	13.0%	12.6%	13.9%
公立大学	2.2%	2.0%	2.5%	3.0%	4.0%	3.7%	3.7%	4.2%	4.3%	4.6%	5.0%	5.0%	4.4%	5.2%	5.6%	5.5%
私立大学	59.5%	62.5%	61.3%	62.6%	62.7%	64.0%	66.3%	66.6%	68.1%	69.3%	67.4%	69.1%	72.0%	70.5%	70.7%	70.8%
短期大学	30.7%	27.3%	26.4%	24.2%	23.3%	20.7%	18.2%	16.7%	15.8%	14.5%	14.4%	12.1%	12.2%	11.3%	11.1%	9.8%

などの環境の変化がなければ、県内私立大学への進学者は男女とも頭を打ったと考えられる。時系列でみた場合の短期大学の変化が最も大きく、県立短期大学の四大化にともない2001年度873人（47.2%）が2008年度896人（38.5%）から2009年度555人（26.0%）にかけて大きく減少した。その後も緩やかな減少は続いているが、現在でも女子の県内大学への進学者の4分の1を短期大学進学者が占めており、その役割は大きい。また、女子は公立大学への進学志向が高く、実数にして男子の4倍以上の進学者数がある。時系列のトレンドから今後もこの傾向は続くと考えられる。

3-5. 【県外大学】大学分類別進学者推移

表9、10に県外大学分類別進学者推移と割合を示す。図7、8には総数、割合の推移を示す。

2016年度県外大学分類別進学者は、総数では私立大学4,303人（74.8%）>国立大学848人（14.8%）>短期大学304人（5.3%）>公立大学292人（5.1%）である。県外大学の進学先として私立大学が圧倒的に多く、全体の4分の3を占める。時系列で見ると私立大学は2007年度5,117人をピークに減少している。短期大学は2001年度996人から2016年度304人と3分の1以下に減少している。それに対して国立大学はほぼ横ばいで推移し、公立大学は緩やかに増加している。このことから県外の私立大学への志向は減少

図7 県外大学分類別進学者推移 総数

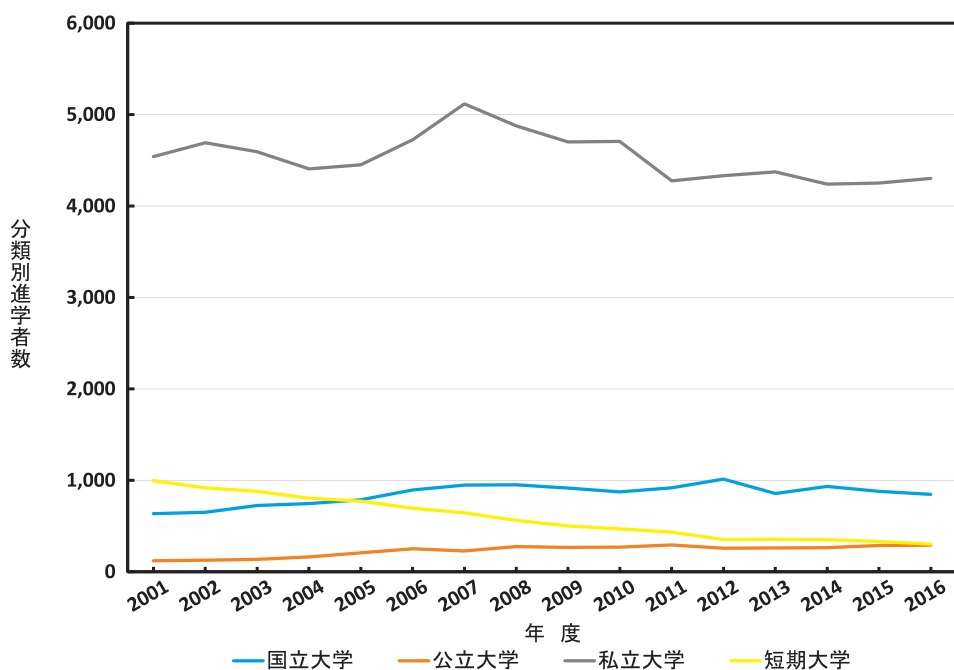
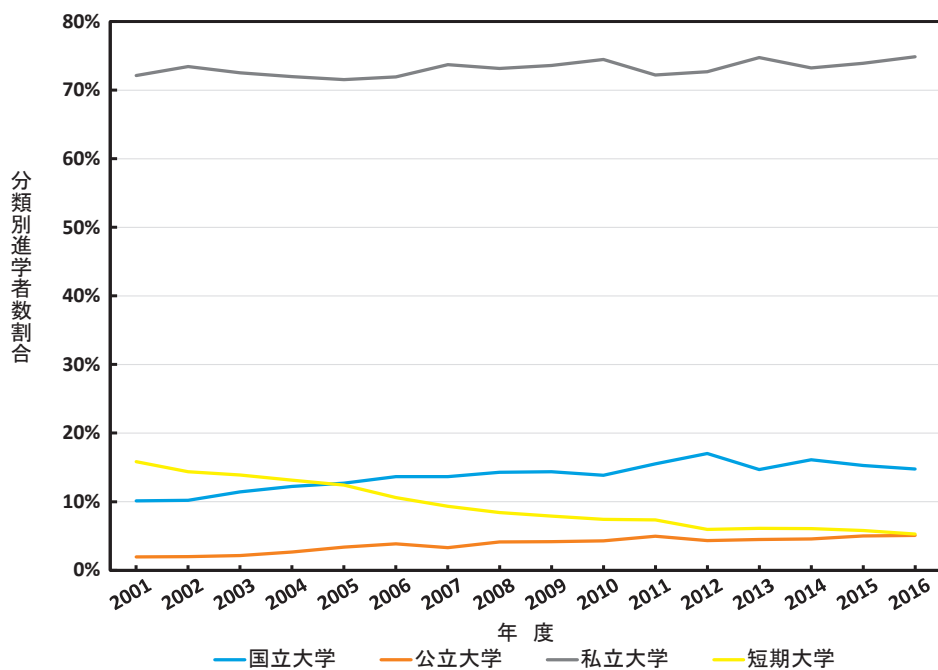


図8 県外大学分類別進学者推移 (割合)



しているかというところではなく、割合の推移では緩やかに増加傾向を示しており、依然としてその志向は根強いとみられる。

男子では2016年度私立大学2,369人(78.6%)>国立大学467人(15.5%)>公立大学142人(4.7%)>短期大学35人(1.2%)、女子では私立大学1,934人(70.8%)>国立大学381人(13.9%)>短期大学269人(9.8%)>公立大学150人(5.5%)である。

男子の県外大学進学者数は2016年度で女子を279人上回っている。男子の進学者の減少により、その差は縮まってはいるものの依然として開きが見られ、男子の県外志向は強い。近年、県外大学進学者が減少しているが、その要因は私立大学進学者の減少によるところが大きい。2016年度国立大学進学者が大きく減少したが（対前年度比73人減少）、それまでの推移からはほぼ横ばいである。公立大学、短期大学の人数は少ないが大きな変化は見られない。

女子の実数では、国立大学、私立大学は横ばいである。短期大学は調査期間において一貫して減少しており、公立大学への進学者は増加している。割合の推移から見ると短期大学を除いては増加しており、女子の県外への四大志向は高い。

調査期間において女子の大学等進学者は減少しているが、これは短期大学進学者が649人減少したことによることが大きく、その他の国立、公立、私立の四年制大学はすべて増加している。男子の県外大学進学者が減少する一方で、女子の県外四年制大学進学者が増えていることは注目に値する。女子の短大から四年制大学へのシフトや県内大学では満たされない女子受験生のニーズが考えられる。

3-6. 県内四年制大学への進学状況および定員、収容力等状況

新潟県では過去において長い間進学率の低迷が続き、社会問題化していた時期があった。当時、その要因が、高校生の学力、県内大学の収容力、経済的問題などと言われた。さらに全国的にも18歳人口が増加し、本県から多数進学していた首都圏の大学への進学がより難しくなった時期と重なったこともあった。その頃、新潟県が中心となって大学進学率向上対策が検討され、県内には多くの私立大学が生まれた。四年制私立大学の定員が増え、県内の大学収容力が大きくなった。それによって、四年制大学への志願者を後押しすることができ、進学率も上昇した。⁴⁾（2016年度進学率46.1%、全国順位32位）しかし、その後の県内大学の現状はどうであろうか。本報告では、ここまで過去16年間の県内高校卒業者の進路動向を概括し、大学等進学者の動向について大学分類ごとにみてきた。当初の思惑通りに県内の大学教育の環境は改善されたのであろうか。次に県内大学への進学状況ならびに現状について探る。

本県はこれから18歳人口の急減期を迎えようとしているが、県内私立大学においては既に定員割れを起こしている大学が複数存在している。新設された公立大学は順調に志願者数を伸ばしているが、県内進学者の状況はどうであろうか。最近の県内国立大学、私立大学への県内高等学校卒業者の進学状況も気になるところである。県内大学の今後を考える場合、県内高等学校卒業者の動向は常に注視しなければならないであろう。ここでは県内高等学校卒業者の県内四年制大学への進学動向について、先に藤村が示した手法を⁴⁾一部用いながら大学分類別に検討する。

表11には新潟県内高校生の県内四年制大学への志願、進学状況および県内四年制大学の定員、収容力等の各項目について大学分類別に時系列で示した。志願者数、進学者数については、大学等進学状況調査報告書の分類に従い、当年度卒業者だけでなく過年度卒業者も含んだ数値で示す。

この調査期間（2001～2016年度）に県内高等学校から県内四年制大学への志願者は210人増えた。その内訳をみると、国立大学は286人減少し、公立大学は当初県内にはなかったが、2002年度県立看護大学、2009年度県立大学、2014年度長岡造形大学が設立され、県内公立大学への志願者は2016年度405人となった。私立大学は91人増えたのみである。志願者の割合を示す志願率（大学分類別志願者数／四年制大学志願者数）は、2001年度においては公立大学が存在せず、国立大学（48.3%）と私立大学（51.7%）の志願率は拮抗していたが、公立大学が複数設立された後は、公立大学の志願率は増加している。国立大学の志願率は一貫して減少傾向である。私立大学は一旦増加傾向を示したが、2007年度をピークに緩やかに減少して推移している。2016年度の志願率は、国立大学が38.0%（10.3%減少）、私立大学は51.3%（0.4%

表 11 新潟県内高校生の県内四年制大学への志願・進学状況および県内四年制大学の定員・収容力等状況

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
4年制大学志願者数(A)	3,566	3,815	3,843	3,839	3,822	3,946	3,867	3,956	4,168	4,241	4,210	4,043	4,173	3,726	3,889	3,776
国立大学志願者数(A1)	1,722	1,916	1,771	1,813	1,602	1,703	1,600	1,713	1,611	1,576	1,543	1,593	1,545	1,373	1,379	1,436
公立大学志願者数(A2)	-	111	97	95	84	86	89	82	316	314	336	307	339	394	407	405
私立大学志願者数(A3)	1,844	1,899	1,975	1,931	2,136	2,157	2,178	2,161	2,241	2,351	2,331	2,143	2,289	1,959	2,103	1,935
国立大学志願率(A1/A)	48.3%	50.3%	46.1%	47.2%	41.9%	43.2%	41.4%	43.3%	38.7%	37.2%	36.7%	39.4%	37.0%	36.8%	35.5%	38.0%
公立大学志願率(A2/A)	-	2.9%	2.5%	2.5%	2.2%	2.2%	2.3%	2.1%	7.6%	7.4%	8.0%	7.6%	8.1%	10.6%	10.5%	10.7%
私立大学志願率(A3/A)	51.7%	49.8%	51.4%	50.3%	55.9%	54.6%	56.3%	54.6%	53.7%	55.4%	55.3%	53.0%	54.9%	52.6%	54.0%	51.3%
4年制大学進学者数(B)	2,714	2,876	2,932	2,948	2,979	3,198	3,263	3,394	3,577	3,547	3,454	3,310	3,393	3,227	3,378	3,219
国立大学進学者数(B1)	1,060	1,116	1,089	1,131	1,087	1,205	1,174	1,287	1,200	1,084	1,077	1,132	1,059	1,067	1,065	1,061
公立大学進学者数(B2)	-	54	66	70	50	63	64	67	244	224	226	226	237	312	309	310
私立大学進学者数(B3)	1,654	1,706	1,777	1,747	1,842	1,930	2,025	2,040	2,133	2,239	2,151	1,952	2,097	1,848	2,004	1,848
国立大学進学率(B1/B)	39.1%	38.8%	37.1%	38.4%	36.5%	37.7%	36.0%	37.9%	33.5%	30.6%	31.2%	34.2%	31.2%	33.1%	31.5%	33.0%
公立大学進学率(B2/B)	-	1.9%	2.3%	2.4%	1.7%	2.0%	2.0%	2.0%	6.8%	6.3%	6.5%	6.8%	7.0%	9.7%	9.1%	9.6%
私立大学進学率(B3/B)	60.9%	59.3%	60.6%	59.2%	61.8%	60.3%	62.0%	60.1%	59.7%	63.1%	62.3%	59.0%	61.8%	57.2%	59.3%	57.4%
4年制大学進学達成率(B/A)	76.1%	75.4%	76.3%	76.8%	77.9%	81.0%	84.4%	85.8%	85.8%	83.6%	82.0%	81.9%	81.3%	86.6%	86.9%	85.2%
国立大学進学達成率(B1/A1)	61.6%	58.2%	61.5%	62.4%	67.9%	70.8%	73.4%	75.1%	74.5%	68.8%	69.8%	71.1%	68.5%	77.7%	77.2%	73.9%
公立大学進学達成率(B2/A2)	-	48.6%	68.0%	73.7%	59.5%	73.3%	71.9%	81.7%	77.2%	71.3%	67.3%	73.6%	69.9%	79.2%	75.9%	76.5%
私立大学進学達成率(B3/A3)	89.7%	89.8%	90.0%	90.5%	86.2%	89.5%	93.0%	94.4%	95.2%	95.2%	92.3%	91.1%	91.6%	94.3%	95.3%	95.5%
4年制大学定員(C)	4,911	5,101	5,091	5,076	5,176	5,126	5,136	5,136	5,366	5,531	5,593	5,585	5,683	5,665	5,705	5,795
国立大学定員(C1)	2,545	2,535	2,535	2,470	2,470	2,470	2,470	2,470	2,480	2,485	2,485	2,485	2,485	2,487	2,487	2,487
公立大学定員(C2)	0	90	90	90	90	90	90	90	330	330	330	340	333	563	583	583
私立大学定員(C3)	2,366	2,476	2,466	2,516	2,616	2,566	2,576	2,576	2,556	2,716	2,778	2,760	2,865	2,615	2,635	2,725
国立大学定員比率(C1/C)	51.8%	49.7%	49.8%	48.7%	47.7%	48.2%	48.1%	48.1%	46.2%	44.9%	44.4%	44.5%	43.7%	43.9%	43.6%	42.9%
公立大学定員比率(C2/C)	0.0%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	6.2%	6.0%	5.9%	6.1%	5.9%	9.9%	10.2%	10.1%
私立大学定員比率(C3/C)	48.2%	48.5%	48.4%	49.5%	50.5%	50.0%	50.1%	50.1%	47.6%	49.1%	49.7%	49.4%	50.4%	46.2%	46.2%	47.0%
4年制大学収容力(C/A)	138%	134%	132%	132%	135%	130%	133%	130%	129%	130%	133%	138%	136%	152%	147%	153%
国立大学収容力(C1/A1)	148%	132%	143%	136%	154%	145%	154%	144%	154%	158%	161%	156%	161%	181%	180%	173%
公立大学収容力(C2/A2)	-	81%	93%	95%	107%	105%	101%	110%	104%	105%	98%	111%	98%	143%	143%	144%
私立大学収容力(C3/A3)	128%	130%	125%	130%	122%	119%	118%	119%	114%	116%	119%	129%	125%	133%	125%	141%
4年制大学定員充足率(B/C)	55.3%	56.4%	57.6%	58.1%	57.6%	62.4%	63.5%	66.1%	66.7%	64.1%	61.8%	59.3%	59.7%	57.0%	59.2%	55.5%
国立大学定員充足率(B1/C1)	41.7%	44.0%	43.0%	45.8%	44.0%	48.8%	47.5%	52.1%	48.4%	43.6%	43.3%	45.6%	42.6%	42.9%	42.8%	42.7%
公立大学定員充足率(B2/C2)	0.0%	60.0%	73.3%	77.8%	55.6%	70.0%	71.1%	74.4%	73.9%	67.9%	68.5%	66.5%	71.2%	55.4%	53.0%	53.2%
私立大学定員充足率(B3/C3)	69.9%	68.9%	72.1%	69.4%	70.4%	75.2%	78.6%	79.2%	83.5%	82.4%	77.4%	70.7%	73.2%	70.7%	76.1%	67.8%

※ 大学定員充足率は県内高校卒業者の比率を示す。志願者数、進学者数は当年度卒業者だけではなく過年度卒業者を含む。

減少)、公立大学の志願率は10.7%となった。

進学者実数、進学率(大学分類別進学者数/四年制大学進学者数)を見ると2016年度国立大学進学者数1,061人(33.0%)、公立大学310人(9.6%)、私立大学1,848人(57.4%)である。国立大学は2008年度1,287人、私立大学は2010年度2,239人をピークに減少している。公立大学は新設されるたびに進学者数、進学率を伸ばして推移している。

進学達成率(大学分類別進学者/大学分類別志願者)は、2016年度私立大学95.5%>公立大学76.5%>国立大学73.9%である。国立大学、公立大学は以前の40~50%台に比べると入りやすくなったように見えるが、国立大学の定員にあまり変化はなく、県内高等学校からの志願者が減少し、定員充足率が減少していること、公立大学では定員、志願者が増加し、先の報告⁴⁾で示したように県外高校からの志願者が増加していることを考え併せると難しくなったのではないかと。私立大学の進学達成率は一貫して高く推移しているが、近年さらに上昇傾向が見られ、高校生の志望はほぼかなえられる状況であるといえる。次に定員と定員比率(大学分類別定員/四年制大学定員)の関係を見る。2016年度国立大学2,487人(42.9%)、公立大学583人(10.1%)、私立大学2,725人(47.0%)である。県内の国立大学の定員推移は若干減少しているがほとんど変化はない。公立大学は新設されるたびに定員を増やしている。私立大学は学科の新設などで定員を増やす大学がある一方で、減らす大学もあり、増減はあるが、全体として緩やかな増加傾向にある。当初は国立大学と私立大学が進学者を分け合って推移してきたが、近年は公立大学がその割合を増やしつつある。

大学収容力（大学分類別定員／大学分類別志願者数）は志願者に対してどれくらい受け入れる余裕があるかを示す。数値が大きいほど学生を受け入れる余裕がある。（ただし大学の難易度とは別である）2016年度国立大学173% > 公立大学144% > 私立大141%の順である。国立大学は公立大学、私立大学に比べて、志願者数に対して定員数が大きく、数値は大きい。国立大学は収容力がより大きくなっている。公立大学は大学新設により定員数が増えたため急増し、私立大学の収容力は一旦減少したが、2009年以降は徐々に増加している。

充足率（大学分類別進学者／大学分類別定員）は県内四年制大学の県内高校卒業者の占める割合を示す。2016年度四年制大学55.5%、国立大学42.7%、公立大学53.2%、私立大学67.8%である。

ここで注目すべき点はその推移である。四年制大学全体では2009年度66.7%に増加し、それ以降減少に転じている。それぞれの大学分類別においても同様な傾向が見られる。国立大学は2008年度52.1%、公立大学は2004年度77.8%、私立大学は2009年度83.5%をピークに減少している。以上のことは単に県内高等学校卒業者の県内大学への志願者減少で説明できない。

進学率が横ばいで推移していても、18歳人口の減少や高等学校卒業者が減少すれば進学者数は減少する。それは何も新潟県に限ったことではなく、隣接する近県であれば同様の現象は起きているはずである。例えば国立大学への進学率が低下し、収容力が高くなり、進学達成率が低下し、さらには定員充足率が低いということは、県外からの進学者が増えているということである。その原因は、相次いで設立された公立大学に進学する高校生が増えたことによるものであろう。その分、県内国立大学への進学者が減少し、県外からの進学者が増えたと考えられる。国公立大学の志願率、充足率の推移がそのことを示している。また近年の県内公立大学の定員充足率の急激な低下および先の報告⁵⁾で示した県外高等学校からの延べ志願者数増加を考慮すれば、県内高校生にとって県内公立大学への進学が厳しくなりつつあることを示している。一方、県内私立大学はその進学達成率、定員充足率、延べ志願者数から志望すればほぼ進学できる状況であり、県内私立大学は県内高校生の進学だけでは定員を満たすことは困難であることを示している。特に近年の進学者数の動向で気になるのは、県内私立大学への進学者が減少する一方で、県外私立大学への進学者があまり減少していないことである。このことは受験生にとって県内には魅力的な私立大学が少ないことを示している。

4. まとめ

新潟県内高等学校卒業者の進学動向を時系列で調査することで次のことが明らかになった。

- ・ 県内高等学校卒業者の進路において、大学等進学者数の実数は減少しているが、割合（いわゆる進学率、2016年度47.7%）は、過去3年間変化は見られず、大学等への進学志向は維持していると考えられる。専修学校進学者は全体の4分の1を占めているが減少傾向である。就職者は近年、経済状況が好転してきたことにより男子においては増加傾向である。また、女子の進学率の推移から進学志向の高まりがみられる。時系列による進路動向から、大学等進学者数と就職者数、専修学校進学者数とその他の間には相関関係が見られ、これは社会情勢が影響していると考えられる。
- ・ 大学等進学者総数は2007年度11,062人をピークに減少しているが、男子は5,649人から2016年度4,628人と1,021人減少したのに対し、女子は5,413人から4,817人に減少したが、減少人数は男子より少なく、18歳人口の減少にもかかわらず、近年、進学者数は横ばいである。2016年度大学等進学者数で女子は男子を189人（2.0%）上回り、実数および割合で男子を上回った。近年の割合の推移から今後も女

子の大学等への進学志向は続くと考えられる。また、県内大学、県外大学のいずれにおいても女子の進学志向は男子に比べて高い。

- ・県内大学への進学では女子が男子を大きく上回っている。男子は女子より国立大学への進学者が若干多いが、その他の大学では女子が多い。男子は国立大学と私立大学の進学者で全体の9割を占めるが、女子は公立大学、短期大学への進学者が多い。また、実数、割合の推移から、今後、新たな大学の新設などの環境の変化がなければ、県内私立大学への男女合わせての進学者数は伸びないと考えられる。
- ・県外大学の進学先として私立大学が圧倒的に多く、県外大学進学者全体の4分の3を占める。時系列でみると私立大学進学者数は2007年度5,117人をピークに減少しているが、割合の推移では緩やかな増加傾向を示し、県外私立大学への志向は高い。近年、男子の県外大学進学者は減少しているが、県外進学先の8割が私立大学であり、私立大学の県外志向は強い。女子では短期大学が一貫して減少しているが、それ以外の大学は横ばいもしくは増加しており、女子の県外大学志向は男子同様高い。中でも近年は7割を私立大学が占めている。
- ・県内四年制大学への進学状況および定員、収容力等状況の推移から、県内の公立大学は県外からの進学者に押されている。県内高校生にとって、県内公立大学合格はやや難しくなったと考えられる。一方、県内私立大学は県内高等学校からの進学者だけで定員を満たすことは困難であり、高校生にとってより魅力的な大学づくりを目指して、県内はもちろん県外からの進学者を増やす努力が必要である。

2001年度以降、県内高校卒業者の県内大学進学者と県外大学進学者の開きは縮小したが、調査期間においては県内大学への進学者が779人増加したのみであり、近年は実数、割合とも両者の間では一定の間隔において平衡を保っている状態である。県内大学への進学者は頭打ちとなり、県内大学から県外大学への進学者のシフトは、県内の大学環境が変わらない限りは大きな変化は見られないであろう。

特に近年の進学者数の動向で気になるのは、県内私立大学への進学者が減少する一方で、県外私立大学への進学者があまり変化していないことである。このことは受験生にとって県内には魅力的な私立大学が少ないことを示している。また、東京で就職する若者が増えており、そのためには東京の大学が有利という流れが作用していることも考えられる。

県外大学進学者の進学先で圧倒的に多いのは私立大学である。本報告の冒頭で示したように、大都市、特に首都圏にある大規模私立大学への進学であることは明白である。それに対抗する最も即効性のある方法は県内私立大学の公立化あるいは公立大学の拡充であろう。公立化によって授業料は下がり、定員割れが解消し、地方に若者がとどまる。特に新潟県においては、女子の県内大学への進学志向や新設された公立大学への志願者数、進学者数の実績を見れば、その効果は容易に想像できる。公立大学を新設することで確実に進学者が増え、進学率が上がるのである。一方で公立大学への県外からの進学者が多くなる可能性もかなり高い。地方の大学に若者が集まり、恒常的に地方経済の好循環をもたらしてくれると考えられる。現在、公立化を進めている自治体にはこのような背景もある。⁶⁾

しかし、地方私立大学の公立化や既存の公立大学の拡充を進める前に原点に立ち帰ってみることも必要ではないか。私立大学には、設立当初、国公立大学では対応できないような独自の教育や地域ニーズに沿った木目の細かい教育などの目的があったはずである。現在、地域創生のキーワードである連携は、企業や各種団体だけでなく大学にも及び、インターンシップなど様々な活動が活発に進められている。地方の学生を地方で育てる趣旨のものだけではなく、都会の大学と地方との連携も積極的に行われている。

る。地方私立大学には今以上に地の利を生かした活動を進め、外に向かって発信できるようなよりアグレッシブな教育活動が求められている。一方で県内の進学関係者からは、公立化することでそれまでの私立大学であれば進学できた受験生が進学できなくなってしまったという声を聞く。残された時間は多くないが、地方私立大学の存在意義を改めて見直すことも必要である。

参考文献

- 1) 「18歳人口 減少期迫る」日本経済新聞2017.1.4
- 2) 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」2015改訂版（抜粋）文部科学省
- 3) 「『次世代の学び』 伸びしろ」日本経済新聞2017.1.4
- 4) 藤村正司, 「新潟大学と地域社会」国立学校財務センター研究報告. 2. 141-160 (1998)
- 5) 山口雄三, 大場純慈, 内海佳之, 「新潟県内の大学分類別志願者動向（2001-2016年度）」
- 6) 「公立大学の大学数・法人化数・学生数の推移」文部科学省ホームページ（2017）